清水谷家の椋

この神々しい樹齢300年の古木は、公家の清水谷家の邸宅の敷地内に数本ある椋の木のうちのひとつです。清水谷家は有力貴族である西園寺家の分家であり、数多くの歌人や政治家を輩出しています。江戸時代の最も有名な清水谷家の一員は清水谷実業です。実業は当時を代表する歌人であり、新鮮で、時には遊び心さえも感じさせる歌風で知られています。その和歌の弟子には、貴族階級の者だけでなく上流庶民も数多く含まれていました。

江戸時代には、彼の弟子のように、和歌は貴族だけではなく社会に広く広まってゆき、たくさんの人が和歌を詠みました。こちらが彼が詠んだ和歌のひとつです。

ながれゆく音ぞさびしき花鳥の春もとまらぬ庭のやり水

（宝永仙洞着到百首）（霊元院の仙洞御所で催された歌会で詠まれた和歌）

1864年には、長州藩士、来島又兵衛がこの木の下で自決しました。又兵衛は尊王攘夷の過激派である遊撃隊の指導者でした。